

名 称	牛津っ子支援センター
所 在 地	〒849-0306 佐賀県小城市牛津町勝1324-1
連 絡 先	TEL : 0952-63-8813 FAX : 0952-63-8814 URL : http://www15.ocn.ne.jp/~tuno310/

地域の現況・特色

活動対象地域の人口 小城市牛津町 10,607人

小城市牛津町は、佐賀県のほぼ中央に位置し、北に天山を望み、南は佐賀平野の北端の一角を占めている。また、町の中央には天山山系に源を発した牛津川がゆるやかに蛇行しており、恵まれた自然環境である。

江戸時代には長崎街道がこの地を通り水陸交通の要衝となり、各種の卸問屋が集まり活気づいていた。現在は、JR長崎本線と国道34号、207号が東西に走っているのをはじめ、JR牛津駅を中心に県道6路線が放射状に伸び、交通の要衝となっている。

平成17年3月1日に、小城町、三日月町、芦刈町と合併して小城市になった。

事業の名称、活動概要

名称 津の里ミュージアム

第2・4土曜日の午前中に、地域の大人や中高生のボランティアが指導者となり、子どもたちに様々な体験活動を提供するプログラムである。以下の三つのテーマに基づき実施している。

- ①子どもたちに安全、安心な居場所を提供する。
- ②地域の自然や文化、人材を活かしたプログラムを提供し、子どもたちの創造力を養う。
- ③津の里（牛津町）にある自然・施設を“ミュージアム”（博物館）にとらえ、これらを最大限に活用する。

事業の実施に至る背景、連携・協働のねらい

完全学校週5日制の実施に伴い、子どもたちが地域や家庭で過ごす時間が増えるのに対

応し、社会教育的側面からのアプローチとして、子どもたちの「生きる力」や「心の豊かさ」、あるいは「知的好奇心」を育むためのプログラムを提供することを目的に実施した。

学校、地域、家庭が連携することにより、地域の子どもは地域で育てるという意識が定着しつつある。また、津の里ミュージアムを立ち上げるに当たっては、各種のまちづくり団体や地域の大人に協力を依頼し、連携を取りながら事業を実施してきた。各種団体や地域の大人の社会参加を促し、自らの知識や経験を活かしていただくことにより、地域の教育力の向上も目指している。

事業の内容

① 事前準備として行った取り組み（企画段階）

コーディネーターと生涯学習課職員で、学校や各種団体に対して事業の趣旨説明を行い、学校側には学校施設の使用や学校行事との調整など、協力と支援を依頼した。

また、市内の市立牛津中学校と県立牛津高校へは「津の里ミュージアム」ボランティアスタッフ募集のための説明に出向き、活動を始める前には、参加希望登録した生徒に対して研修会を実施した。

② 活動の展開内容（活動段階）

芸術分野に取り組む「アート」、遊びを通して体験学習をしていく「遊び」、ボランティア活動や料理を通じて学ぶ「くらし」の三つのテーマを設定し、「アート」には“アートで学ぼう隊”、“遊び”には“わくわく自然体験隊”“レッツチャレンジ隊”、“くらし”には“ときめき季節感じ隊”“料理大好き隊”というグループで活動に取り組んだ。

“アートで学ぼう隊”の指導者には、まちづくり団体としても活動している芸術家集団に、“料理大好き隊”には食生活改善協議会に協力していただくなど、それぞれのテーマに応じた指導者を選定し、依頼した。

ボランティアスタッフは、町内の中・高校生を含めた各青少年層から参加を募り、次世代のリーダー育成を目指すとともに、将来、指導者となる人材の確保につなげている。すでに地域貢献活動に取り組んでいる牛津高校に対しては、地域貢献活動の一環としてプログラムの活動のサポートをしていただくよう依頼したところ、地域でのボランティア活動を取得単位（35時間で1単位（上限2単位））として認められることになり、その結果、牛津高校生のボランティア協力が継続的に受けられるようになった。その結果、指導者の負担が軽減されるとともに参加した子どもや大人にとっても若い世代との協働意識が醸成されるなど、大きな効果を生んだ。

③ 連携・協働に当たってのポイント、留意点

学校施設を使用するに当たり、学校用務員の方に安全管理者として協力していただき、指導者の方々が円滑に実施できるよう配慮していただいた。

また、津の里ミュージアムの広報活動の一環として、各学校に活動写真等の掲示スペースを確保していただいた。

連携を図る上では、コーディネーターの果たした役割が大きく、個人や組織での問題や悩みを丁寧に汲み取り、実行委員会の会議等でみんなの問題として議題に挙げ、みんなで解決していくように取り組んだ。このような作業が、連携・協働を図る上での重要なポイントだと考えている。

事業の成果と今後の課題

津の里ミュージアムは、その認知度が高まるにつれ、周囲の期待が更に高まり、応援してくださる方々も増えてきた。また、平成14年以來5年間継続してきたことで、参加した子ども、ボランティアの学生、協力していただいた大人や各種団体の方々とのかつたつながりが生まれた。このことは、連携・協働の目的を達成できつつあると実感している。

今後の課題としては、津の里ミュージアムを通してより多くの人たちがつながりを持てるようにし、更に連携・協働を進めることである。また、現状の課題として、継続的にコーディネーターを確保できるようにすること、将来にわたり継続していくために後継者を育てていくこと、各指導者に対する情報を提供していくことが挙げられる。このような問題を解決するために、コーディネーターの待遇を向上させるための予算を確保すること、人材の発掘・育成を図ること、指導者研修会を充実させることなどが必要であると考えている。



アートで学ぼう隊 “カメラで遊ぼう”



わくわく自然体験隊 “薬草探検”



レッツチャレンジ隊“天山登山”



ときめき季節感じ隊“絵手紙教室”



料理大好き隊“菜の花食卓”



津の里ミュージアム夏合宿の風景

執筆者職・氏名：小城市教育委員会牛津公民館係 主事 相川 達也

コーディネーターからの一言コメント

まちづくりに関わっている多様な団体が、それぞれの得意分野のプログラムと指導者を青少年に提供し、高校生がボランティアとして各種プログラムを成功させるために汗を流している。コーディネーターの今後の活躍に期待したい。

(木村 清一)